



並木中等進路だより

NO. 2 2024. 7. 10

並木中等教育学校
学習進路部

7月の保護者面談では、ぜひご家庭と学校の情報共有を具体的にさせていただき、お子さんの進路実現に向けての「**目線合わせ**」をお願い致します。生徒の皆さんは、「大人」の前で今の自分の現状とこれからの改善策ややりたいことをできるだけ具体的に語ってください。

6年間の中高一貫校では3、4年次が中だるみと言われがちですが、一生懸命になれる「何か」を持ち、夏休みも生活リズムを崩さずに、並木の宿題を確実にこなしながら、忙しい毎日を送っていれば、受験でも行事でも「**やりきる力**」を発揮できます。

夏休み＝生活・学習習慣を見直し、9月以降につなげる期間

夏休みは、自分で計画を立て、時間管理をする習慣をつけるよい機会です。夏休みには、これまでの生活・学習習慣を振り返り、自宅での学習習慣を見直しておきましょう。特に1年次生にとっては、入学して初めての長期休暇です。夏休みの課題を後回しにしてしまうことのないように、以下の①の2点の確認を夏休み前に行いましょう。

①7月までの振り返りをする

学習面：定期テストや小テスト、今までの宿題の取り組み状況を振り返り、自分の苦手教科・分野を把握します。9月以降の授業で理解できるよう、夏休みを利用して、苦手だと感じるところを復習しておきましょう。

生活面：7月までの学校生活（遅刻はなかったか、宿題をきちんと提出したか、など）を振り返り、よかった点、問題のあった点を洗い出し、9月以降をどう過ごせばよいかを考えておきます。

②夏休みの計画を立てる

夏休みに取り組みたいこと（自由研究、部活動、勉強など）を具体的に考え、目標を立てます。目標を実現するための計画表を作成する際は、1日の生活リズムを崩さないようにします。フォールディング手帳を使い、計画と記録を振り返りながら過ごしましょう。1週間に1日の予備日を作っておくとうまくいきます。起床、就寝は土日も含めて授業日と同じ時刻になるようにしましょう。

③進路について考える

「進路」＝大学とは限りません。むしろ広く世の中の仕事や学問について知る機会を作りましょう。前期生であれば身近な「大人」に話を聞くのもよいですし、特に2年生は「**クリエイト・イノベーション・プログラム**」で企業から出されているミッションについて調査するのもよいでしょう。ジュニア新書等を読んで興味のある分野についての知識を深めるのもおすすめです。

④オープンキャンパスに参加する(主に3～6年次生)

Web開催と対面開催の両方を実施する大学が増えています。対面の場合は予約が必要な大学も多いので気をつけましょう。体験や実習は公開講座や大学のオープンキャンパスを利用するのも一つの方法です。4年次生は8月に主要大学説明会もあります。後期生には多くの進路情報誌を配付していますので活用しましょう。

⑤家事をする

勉強だけしていれば成長できるわけではありません。知識と経験があってこそ、並木中等の目指す「**能動的な学びができる人間力を備えたグローバルリーダー**」になれるのです。長期休業中だからこそ自分ができる家事をして人間力を磨きましょう。家事は段取り力を高めるのに最高の作業です。日頃の家族のサポートに対して感謝も感じることでしょう。

「進学要覧」を配付します（1～6年次生）

§1 進路状況一覧

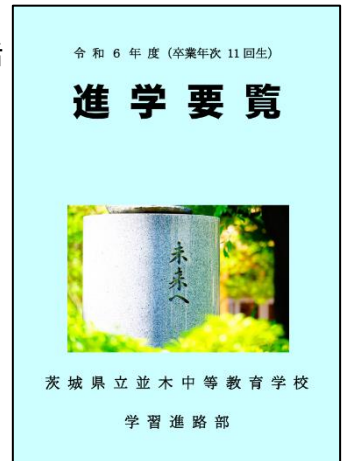
§2 2024年度大学入試結果の概略

§3 2025年度大学入試の基礎知識

§4 令和6年度大学入試本校の結果総括

- ・ <11回生>後期課程での校内テスト平均順位と大学受験結果
- ・ 前期課程での校内テスト平均順位と進学先（3回生～11回生）
- ・ 後期課程での校内テスト平均順位と進学先（3回生～11回生）
- ・ <累計>東京大学受験者のセンター・共通テスト得点率と受験結果（3回生～11回生）
- ・ <累計>筑波大学受験者の後期定期テストと受験結果（3回生～11回生）
- ・ <累計>医学科受験者のセンター・共通テスト得点率と受験結果（3回生～11回生）
- ・ 令和6年度入試 指定校推薦依頼のあった大学一覧

§5 合格体験記



3月に卒業した11回生は、3年前からのコロナ禍の影響を少なからず受け、行事の代替や中止、休校による対面授業の中断などもありましたが、学習内容を本質的に理解する姿勢やICT機器の積極的な活用により、歴代の卒業生同様、並木スタンダードである「強気の出願スタイル」で戦えました。

本校は授業第一主義を貫いており、**授業での取り組みを大事にしています。**その到達度を確認するための校内テストは本校の進学指導において重要なものです。データには数値や結果だけが記されていますが、そこには努力や達成感、悔しさなどのそれぞれの思いがあります。この進学要覧は、在校生の皆さんにとって希望する大学学部合格するための成績の目安や励みとなることでしょう。データだけでなく、受験体験記としてうまくいったこと、失敗したことを惜しみなく書いてくれました。一部を次ページに掲載しました。

合格体験記に載っている多くの卒業生が実践していたこと ベスト3

- 1 学校の授業・教材・課外・定期テストを活用した。添削してもらった。復習ノートを作った。
- 2 スキマ時間を活用していた。朝、休み時間、待ち時間を利用した。小テストは満点をめざした。
- 3 目標を高く定めた。やりたいことを研究した。安易に妥協しなかった。

学習した成果は3～6か月後に出る！～6年次生の皆さんへ 夏休みの過ごし方のヒント～

現役生の学力の伸びは右のイメージです。すぐに結果が出なくても焦らないでじっくり学習しましょう。ただし、やり方が適正かどうかは具体的に確認しましょう。

量を確保 平日5h 休日10h

夏休みに400h超え！可視化せよ。

*進路室前の500マスシートどうぞ。

質を向上 グラダラ学習から脱却。

メリハリ＆トコトン学習の両立

予備日を入れて計画&記録

生活リズムの維持

起床・就寝・学習開始時間の固定

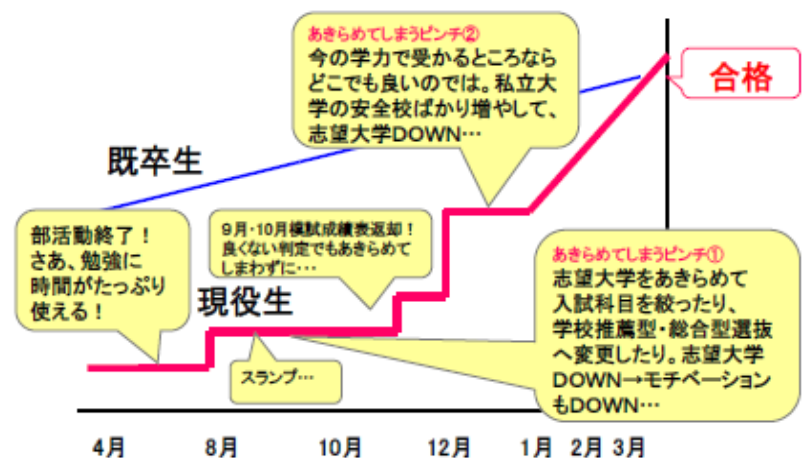
ブライの効果的利用

受験は団体戦&総力戦

自分自身の学習や生活への姿勢が

周囲にどう影響を与えられるか

→「環境」として自分に返ってくる



休み明け、模試後に
うまくいかずに落ち込
まない またはうまくい
っても浮かない

推薦&総合型入試
受験する時は覚悟！
周りが受験していても
粛々と勉強。

ラスト3か月の
模試がない時期こそ
伸びるチャンス！

「合格体験記」より （ぜひ本編も読んでください）

勉強の努力の仕方

「頑張った教科のほうが頑張らなかった教科より成績が悪かった」と悩んでいる人も多いと思います。私はあまりこの悩みがなかったのですが、それは「努力のベクトルの向きを間違えない」ということを意識していたからだと考えます。多くの人は「頑張った、努力した」という事実をベクトルの大きさつまり学習量のみではかりますが、それだけでは正しく成績が伸びる方向に進んでいるとは限りません。自分に合っていないかたり無駄な作業をしているだけだったりするかもしれません。ここで意識してほしいのがベクトルの向き（勉強の方向性）です。自分がやっている勉強方法は本当に成績を伸ばすのに意味があるのか、自分に合っているのかを考えて勉強をするといいと思います。

具体的には4、5年生であったら定期テストの勉強をするときに自分に合った勉強法を見つけておくのがおすすめです。私は、理系はとにかく演習して反復、文系は音読で暗記をベースにしていました。6年生だったら自分が受ける大学の特色などを、過去問を見たり解いたりして確かめて今自分が足りないところを把握し伸ばしたり、苦手な範囲を反復演習したりするといいと思います。自己分析を取り入れると、より演習の精度が上がっていきます。

受験期のメンタル(精神面)

受験直前に意識していたのは、「あの時にあれをやっておけばよかった」などの後悔をするのではなく、その失敗を受け入れて今できることを考えるということです。



やっていた助かったこと(一例)

なみきさん（11回生作成キャラクター）→

計算練習をしたこと。裏紙やメモ帳などに計算練習をしていた。夏休みなどは朝最初にするようにしていた。特に引き算などが怪しかったので自分で適当に式を立てて筆算をして出た答えを電卓で確かめるなどのことをしていた。4桁や5桁の筆算は地味に化学などで使うのでやってみるといいと思う。微分積分などもやってもいいと思うが、答え合わせのやり方があまりないので手軽にできるものから始めるのを勧めます。

算数の考え方

僕たちは小学校在学時に、使える道具(公式や定理など)が少ない中、自分の頭で考える算数を経験しています。数学には便利な道具が豊富にあり、それを身に着けるほど、意識しなければ頭を使わない作業のような学習になってしまいがちだと思います。大学の入試問題を相手にするには、その道具を単に使えるだけでなく、使う箇所や使い方を見定める必要があります。数学に限らず、「なぜ」を常に考える学習が理想的だと思います。東大対策をするうえで身に着けたこの意識は、他の大学の試験勉強にも大いに役立ちました。

本を読む

今年一年間を経て、僕は受験勉強に限らず、勉強を続けるうえで読書の重要性に気が付きました。文章を素早く読み取る力が自分には足りていないと思う場面が多々あり、親や先生に本を読めと言われたことを素直に受け入れていればよかったと後悔しました。また、大学に入ると自分で文章を書くことも増えるので、様々な表現の仕方を知ることには価値があるし、他者の考えを取り入れたり、自分の中で消化することで新たな発見をしたり、物事を違う視点で見ることができるかもしれません。時間のある5年次以下の人はぜひ習慣にしてみてください。

日々是好日

僕は受験勉強を始めるまで、目標に向けてひたむきに努力するということをしたことがありませんでした。部活動は6年生の6月まで続け、自分なりに勉強との両立の面でも頑張ったとは思いますが、そこに明確な目標は設定できていませんでした。受験を通して目標に邁進することがこんなにも楽しく、わくわくするものであるのかと感動し、視界が開けた気さえしました。また、校内の仲間しか見ていなかったのが、全国の受験生を相手にするようになり、敵の強さは想像を絶するものであることにも気づかされました。つらいこともありましたが、思い返せば努力した日々、ライバルに食らいつこうとした経験はかけがえのない物であり、おそらく一生忘れることはないと思います。この経験ができたのも、ともに頑張った仲間、応援してくださった先生方、支えてくれた家族の存在があったからです。

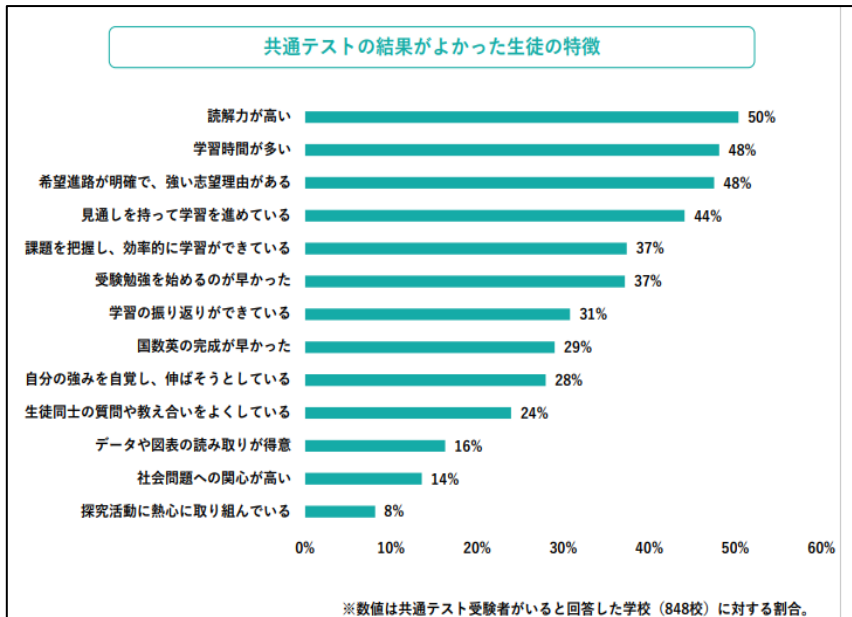
共通テストの結果がよかった生徒の特長

右のグラフは「新課程および教育活動全般に関する調査」（ベネッセコーポレーション）です。

結果がよかった生徒の特長として、「**学習時間の多さ**」はもちろんのこと、「**強い志望理由がある**」ことで学習に向かうモチベーションを高めることも結果を出すことにつながっています。また、「**見通しを持って学習を進めている**」「**課題を把握し、効率的に学習ができている**」が多いのも注目すべき点です。

なんと言っても「**読解力が高い**」ことは全科目に必要なことといえます。

ちなみに、同様の調査で、「**共通テストの結果がよかった学校では、授業や定期テストで読解量の多い問題の出題や図・グラフの読み取りの機会を多く設けている**」という結果も出ています。これらはまさに本校で行われていることですので、**日頃の授業や定期テストに対して、意識してしっかりと取り組むことが力をつけることにつながっている**といえます。



令和7年度大学入学共通テスト（6年次生へ）

（詳細は進学要覧および大学入試センターHP）

高校に在学している場合は、学校からまとめて出願します。「受験案内」冊子は、6年次でまとめて受験生徒人数分を取り寄せています。9月上旬に6年次生向けの「共通テスト出願説明会」が行われ、そこで「受験案内」等の必要なものが配付されます。願書の書き方などの説明がありますので、注意して聞きましょう。まとめて郵送するので、×切日等は厳守してください。

共通テスト以外の入試は、原則として受験生本人が取り寄せ、記入、送付等を行います。（推薦入試などは例外もあります）まずは令和7年度入試の「募集要項」を手に入れて熟読しましょう。

センター試験と比べて、出題形式は多少変わったものの、従来の出題内容に変わりはありませんので、**秋までは記述力を高める学習**をしておきましょう。自分で解答を書ければ迷わずに選べます。焦らずに、選択肢に頼らない、自力で解答できる力をつけていってください。

「行けそう」な大学ではなく「行きたい」大学へ = 並木スタンダード

社会生活をイメージする（1～5年次生へ）

現6年次生の入試から、学力に加えて「何をどのように学びたいのか」「将来どうしたいのか」という**探究的視点も**一層求められていきます。本校では、前期生は総合的な学習の時間を中心に「ミニ探究活動」に積極的に取り組み、後期生は「課題探究」で設定した課題が将来の進路へと結びつくことにつながることもあります。

進路は急いで決める必要はありません。例えば、お家の方の中学・高校時代の進路決定のエピソードを聞くのも進路学習です。身近な人の話は実感がわきやすく、真剣に自分の将来を考えるためのよいきっかけになります。また、可能な限り**様々な活動に参加すること、自分の得意なことを見つけ、将来の職業と結びつけて考えることにつながります。**自分の中での選択肢の幅を十分に広げてください。